

# 戦後・被爆70年記念八千代平和事業

## 考えよう、平和の大切さ

終戦から70年。多くの尊い命が失われ、幸せな生活を一瞬で奪い去った惨事の記憶が、風化しつつあります。

大きな節目を迎えた本年、市ではさまざまな平和事業を開催しました。私たちは、改めて戦争の悲惨さを理解し、平和の尊さを考え、いつまでも平和な時代が続くよう、努力していかなければなりません。

【問い合わせ】国際推進室 電話 483-1151 (代表)

### 戦後・被爆70年記念事業の紹介

■黙とうと献花の集い 広島に原爆が投下された8月6日に、平和祈念碑前で原爆犠牲者の冥福を祈る「黙とうと献花の集い」を毎年開催しています。戦後・被爆70年の今年も、新しい平和



▲新たな平和のシンボルとなった広島の被爆樹木「アオギリ」

のシンボルとして被爆に耐え、今も生き続ける被爆樹木の苗木を広島から譲り受け、市民会館の平和祈念碑横に植樹しました。

### ■八千代平和事業・朗読劇「夏の雲は忘れない」

広島・長崎に落とされた原子爆弾で両親を亡くした子ども、子どもを亡くした両親の書き残した手記を、夏の会の女優6人と公募で選ばれた市内の中学生・高校生5人が朗読しました(広報やちよ8月15日号で当日の様子を掲載)。朗読劇は、平成7年に終戦50周年記念事業として始まりましたが、20年経過した今もなお、観衆に大きな感動を与えています。

### ■次世代へつなぐ平和の願い「戦争と平和展」

改めて戦争の悲惨さを理解し、平和の尊さを考える機会になればと、終戦記念日に合わせて市内5か所で戦争・原爆に関する資料を展示。市民から平和への願いを込めて寄贈された8万羽を超える千羽鶴も展示しました。



▲市民ギャラリーで実施した、戦争関連資料や千羽鶴の展示

■時を超え、語り継ぐ「被爆体験講話」 戦争の恐ろしさや平和の尊さを、次世代を担う子どもたちに伝えるため、被爆体験講話を行っています。今年度は、市内の16小学校・2中学校で実



▲7月8日に行った八千代台西小学校での被爆体験講話の様子

施します。被爆体験者の声は時を超え、本では伝えきれない戦争の愚かさや平和の大切さを、子どもたちに伝えています。

### 八千代平和事業のあゆみ

| 時期       | 内容   |
|----------|--|
| 昭和 61年8月 | 広島旧庁舎の被爆石を使用した「平和祈念碑」を市民会館前に建立                         |
| 62年8月    | 市民の戦争体験記録集「あの日から」発刊                                    |
| 9月       | 平和都市宣言   |
| 63年9月    | 平和宣言都市広告塔を市民会館前に設置                                     |
| 平成 元年12月 | 時計塔・平和宣言都市広告塔を八千代台東口に設置                                |
| 2年10月    | 平和宣言都市モニュメントを勝田台市民文化プラザ前に設置                            |
| 7年7月     | 終戦50周年を記念し、八千代市文化振興財団(現:八千代市文化・スポーツ振興財団)と共催で八千代平和事業を開始 |
| 8年8月     | 終戦50周年記念平和事業記録集「わすれません くりかえしません」発刊                     |
| 12年4月    | 市民で構成する「八千代平和事業市民実行委員会」を結成。以降、八千代平和事業を市民参加型に転換して展開     |
| 22年4月    | 平和首長会議に加盟  |
| 27年8月    | 平和祈念碑前に被爆樹木の苗木を植樹                                      |

### 被爆者からのメッセージ

### 被爆から70年間 生き残った者が思うこと

八千代市原爆被爆者の会 中村紘さん



私も含めた被爆者の多くが願うのは「ヒロシマ、ナガサキで起きたことは二度とあってはならない」との思いです。「良い核兵器、悪い核兵器」はありません。同じく「良い戦争、悪い戦争」もありません。戦争は子どもたちを不幸にします。大人として、子どもを守り、幸せにする責任があります。語り部として子どもたちによくお話することは「普通」です。聞ける普通、話す普通、見る普通、歩く普通、持つ普通、これらを当たり前と思っていることが「すごく幸せなこと」とお話しすると、多くの子どもたちがごく普通の暮らしが幸せなことであると気付いた、と感想文に書いてくれます。ある女子生徒に、一番幸せを感じる時は、と聞くと「お母さんが炊いてくれた湯気の立つご飯を食べる時」と答えてくれました。この普通が守れる世界であってほしいと願っています。

### 平和への想いを世界に発信

### 市内在住の被爆者が「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」に参加

NGOピースボートでは、被爆者と共に地球を周りながら、寄港地で被爆の証言活動を行う「ヒバクシャ地球一周 証言の航海(通称:おりづるプロジェクト)」を2008年から実施しています。戦後・被爆70年の節目となる今回の航海には、八千代市在住の被爆者、小谷孝子さんが参加し、4月12日～7月25日の105日間、インドやベルギーなど世界23か国を訪れました。寄港地では、紙芝居や演劇で核兵器の恐ろしさを訴え、各国政府に核兵器禁止条約の批准を



求めるなど、核廃絶に向けた活動を実施。また、市内の中学生が平和への想いを綴ったメッセージカードを各国の青年にプレゼントしました。なお、11月14日(土)に小谷さんなどによる帰国報告会を行います。詳しくは10月15日号に掲載。



▲平和への想いを世界に届けました



▲インドで腹話術で語る小谷さん



▲ベネズエラの青年たちと一緒に

広告